

# 諏訪の景気動向

平成20年8月

(平成20年7月末 D・I調査)

平成20年8月19日  
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成 20 年 7 月末）

「平成 20 年 7 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 213 社のご協力を得て行った 7 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の業況判断 D I は  $\Delta 8.0$  と 4 期連続してマイナスとなった。また、回答全社の「3 ヶ月後」の予想では 28.3% の企業が「悪化」としており、同 D I は前回調査時より 4.8 ポイント悪化し  $\Delta 14.2$  となった。

諏訪地域の景況は、製造業の収益状況や受注見通し、商業、観光・サービス業などの個人消費動向を含め減速感がみられる。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」18.6%、「悪化」32.7%で、業況判断 D I は  $\Delta 14.1$  と前回調査時の  $\Delta 22.0$  より 7.9 ポイント回復したもののマイナス基調が続いている。

受注状況は、「3 ヶ月前」と比べ、「減少」とする企業が 40.4%みられるものの、「増加」とする企業も 23.1%みられ受注状況 D I は  $\Delta 17.3$  となった。規模別では、「100 人以上企業」が「3 ヶ月前」と比べの 35.5%の企業で「増加」したとして、前回調査時の  $\Delta 11.1$  より 20.8 ポイント回復し 9.7 とプラスに転じた。業種別では、一般機械の 51.2%、金属機械の 42.9%の企業で受注が「減少」しており、受注動向 D I は前回調査時に比べ一般機械が 4.9 ポイント悪化し  $\Delta 29.3$ 、金属機械は 18.1 ポイント悪化し  $\Delta 28.6$  となっている。一方、精密機械では 33.3%、輸送用機械では 25.0%の企業で「増加」としており、受注動向 D I は前回調査時に比べ精密機械は 20.0 ポイント回復し  $\Delta 13.3$ 、輸送用機械は 29.0 ポイント回復し  $\Delta 6.3$  となっている。

「3 ヶ月後」の業況予想では、「好転」企業が 13.5%あるものの、「悪化」企業が 31.0%に達することから、同 D I は前回調査時の  $\Delta 10.0$  より 7.4 ポイント悪化し  $\Delta 17.4$  とマイナス幅が拡大している。

ヒアリング調査では、米国の景気減速と原油や穀物などの原材料価格の高騰が続くなかで、国内景気も後退しており、今後の親会社の減産や設備投資の抑制などに不安感がきかれる。

また、最近の D I 調査では、各回答に「横這」とする企業割合が多い傾向があったものの、今回調査では各調査項目の回答で「横這」から「好転」・「悪化」へと移行した企業の割合が増えており、企業間による業況の格差が伺える。

商業は、「前年同期比」の業況では 50.0%の企業で「悪化」として同 D I  $\Delta 38.9$ 、客単価では 52.9%の企業が「悪化」として同 D I は  $\Delta 35.3$  となっている。

諏訪地方の 7 月の天候は、梅雨前線の活動が弱く局地的に雷雨や大雨となることはあったが、真夏日を 14 日記録するなど晴れて暑い日が多くなった。猛暑の影響から、衣料品は T シャツなど値ごろ感のある夏物衣料に動きがみられ、食料品ではアイスクリームや飲料品の売上は前年を上回っているものの、高額商品の動きが鈍いことから景況感悪化している。家電製品では、やはり猛暑の影響から省エネ型エアコンや扇風機の売れ行きは良かったものの、薄型 TV の売れ行きは五輪効果を期待したほどではなかった。

ヒアリングでは、ガソリンをはじめとする諸物価の高騰から「消費者が必需品しか購入してくれない」など消費マインドの低迷がきかれる。

**観光・サービス業**は、本格的な観光シーズンを迎え、また週末の天候に恵まれたことから「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは31.8、宿泊客数D Iは45.5と高水準になっている。

ただし、「前年同期比」の業況判断では47.6%が「悪化」としており同D I  $\Delta$ 33.3、宿泊客数では50.0%のホテル旅館が「悪化」としており同D I  $\Delta$ 36.4となっており、引き続きNHK大河ドラマ「風林火山」の効果があった昨年に比べ低調となっている。

「3ヵ月後」の予想では、秋の観光シーズンに向け業況が「好転」とみるホテル旅館が22.7%あり業況予想D Iは9.1とプラスであるものの、客単価が「悪化」とみるホテル旅館が36.4%あり同D Iは $\Delta$ 31.8となっている。

各観光地やホテル旅館からは、団体客の減少と鉄道を利用した入り込み客が目立つとの声が多い。

**建設業**は、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta$ 11.8で前回調査時の $\Delta$ 21.4から9.6ポイント回復した。また、受注状況、外注発注量が「好転」とする企業が29.4%あり、それぞれのD I値も10ポイント以上改善している。ただし、「3ヶ月後」の予想では受注状況が「悪化」とみている企業が64.7%あり、同D Iは $\Delta$ 52.9となっている。

ヒアリング調査では、受注単価の競合は激しいものの昨年より計画していた工場の新築や増改築工事などの民間工事に動きが出ており、足元の受注は増加しているとする企業も多い。ただし、製造業の業況の減速感を受け今秋以降の受注動向を危惧する声がかかれる。

建築工事は、諏訪地方の平成20年6月の新設住宅着工件数は139戸で、昨年同月の156戸から $\Delta$ 17戸( $\Delta$ 10.9%)減少した。また、平成20年4月～平成20年6月の累計着工戸数は430戸で前年同期の504戸に比べ $\Delta$ 74戸( $\Delta$ 14.7%)減少した。土木工事は、県関係の平成20年4月～7月の公共工事(地元業者受注分)は48件1,445百万円で、前年同期累計の44件2,538百万円に比べ金額は $\Delta$ 1,093百万円の減少であるが、工事件数はほぼ同水準となり幾分動きが出てきている。

**雇用状況**は、6月の諏訪地域の有効求人倍率は、1.12倍と全国(0.91倍)及び長野県(1.05倍)を上回り平成15年10月以降57ヶ月連続して1倍を上回っているものの、昨年10月より9ヶ月連続して前年同月比を下回っている。

※平成20年4月分より諏訪公共職業安定所の公表数値は、諏訪公共職業安定所岡谷出張所(旧岡谷公共職業安定所)を含めた数値となっております。

## 業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（213社）の「3ヶ月前比」の業況は、「好転」とする企業が21.1%、「悪化」とする企業が29.1%で業況判断DIは△8.0と4期連続してマイナスとなった。

製造業の業況判断DIは△14.1で前回調査時（△22.0）に続きマイナス基調が続いている。製造業主要5業種の業況判断DIは金属製品、一般機械で「悪化」する企業が増えたことからマイナス幅が拡大し、電気機械、輸送用機械、精密機械で「好転」とする企業が増えたことからマイナス幅が縮小している。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは8.8で、季節的要因から観光・サービス業の同DIが回復したことにともないプラスに転じたものの、前年同期比ではいずれの業種でも、マイナス幅は拡大している。

産業別業況表

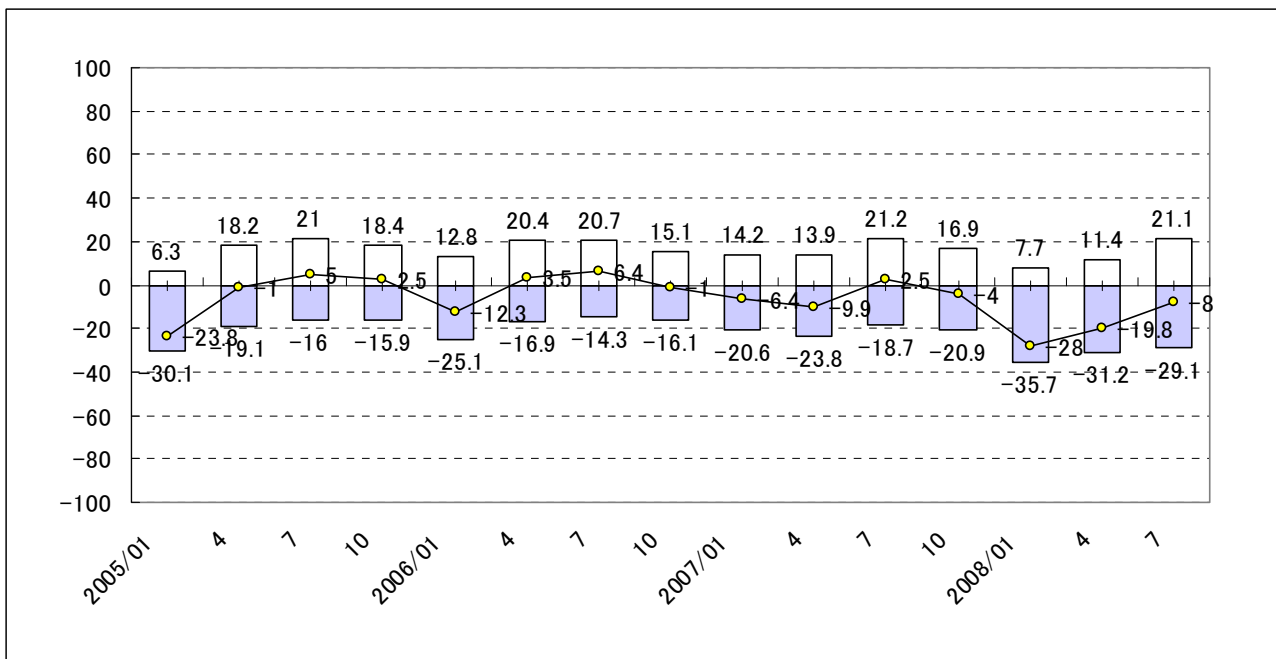
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	213	21.1	49.8	29.1	-8	212	17.5	35.8	46.7	-29.2	212	14.2	57.5	28.3	-14.2
製造業	156	18.6	48.7	32.7	-14.1	156	19.2	33.3	47.4	-28.2	155	13.5	55.5	31	-17.4
非製造業	57	28.1	52.6	19.3	8.8	56	12.5	42.9	44.6	-32.1	57	15.8	63.2	21.1	-5.3
商業(大型店)	18	22.2	55.6	22.2	0	18	11.1	38.9	50	-38.9	18	5.6	72.2	22.2	-16.7
建設業	17	11.8	64.7	23.5	-11.8	17	11.8	52.9	35.3	-23.5	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
観光・サービス	22	45.5	40.9	13.6	31.8	21	14.3	38.1	47.6	-33.3	22	22.7	63.6	13.6	9.1

### 自社業況判断DIの推移

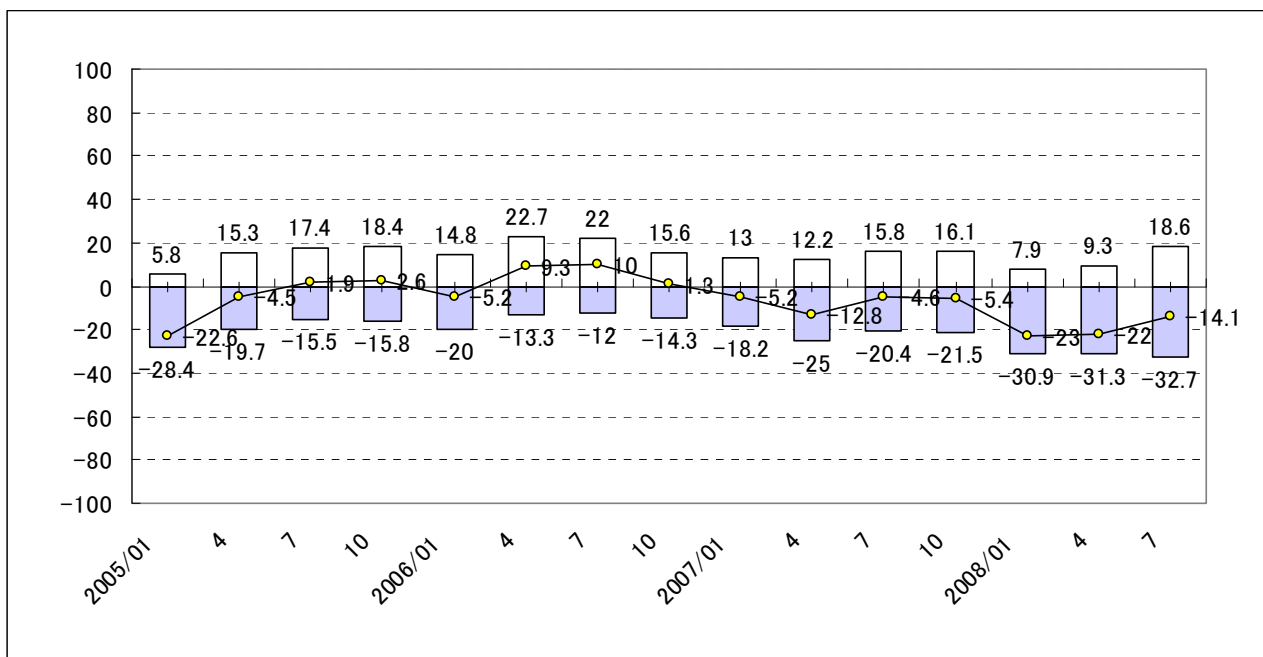
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



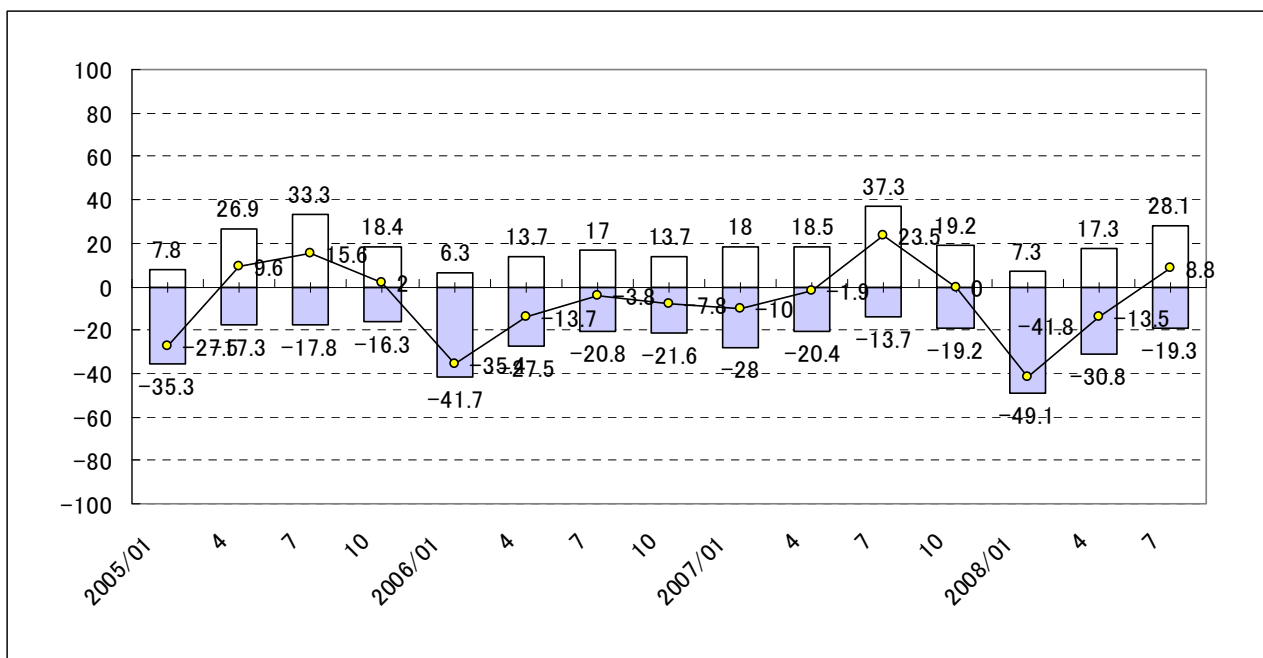
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



# 産業別景気動向

## 1. 製造業

製造業全体の業況判断D Iは、「100人以上企業」で「好転」とする企業が増えたことから前回調査時の△22.0から7.9ポイント回復し△14.1となった。ただし、前年同期比では47.4%の企業が「悪化」しているとして、同D Iは前回調査時の△21.5から6.7ポイント悪化し△28.2とマイナス幅が拡大した。

「3ヶ月前」と比した収益性D Iは△24.4で「悪化」とする企業が35.9%あるものの、原材料価格の高騰分の転嫁が進んでいるなどの理由から11.5%の企業で「好転」としており、前回調査時（△36.0）から11.6ポイント改善した。

受注状況の「3ヶ月後」の予想は、「不変」が42.6%と一番多いものの「減少」とみる企業が41.3%、「増加」とみる企業16.1%で、同D Iは△25.2と前回調査時の△16.0から9.2ポイントの悪化となった。「3ヶ月後」の予想は、いずれの規模でもマイナスとなっているが、なかでも「30～99人以下企業」で「減少」とみる企業が45.3%あり、「3ヶ月後」の受注予想D Iは前回調査時の△16.7から△28.3と11.6ポイント悪化しており、業種別では電気機械が同D I △30.3、精密機械が同D I △26.7と先行きを慎重にみている。

ヒアリング調査では、米国の景気減速と原油や穀物などの原材料価格の高騰が続くなかで、国内景気も後退しており、今後の親会社の減産や設備投資の抑制などに不安感がきかれる。

また、最近のD I調査では、各回答に「横這」とする企業割合が多い傾向があったものの、今回調査では各調査項目の回答で「横這」から「好転」・「悪化」へと移行した企業の割合が増えており、企業間による業況の格差が伺える。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
<b>製造業</b>	156	18.6	48.7	32.7	-14.1	156	19.2	33.3	47.4	-28.2	155	13.5	55.5	31	-17.4	
規模	1～29人	71	16.9	47.9	35.2	-18.3	71	19.7	31	49.3	-29.6	70	11.4	55.7	32.9	-21.4
	30～99人	54	16.7	46.3	37	-20.4	54	13	38.9	48.1	-35.2	54	16.7	51.9	31.5	-14.8
	100～人	31	25.8	54.8	19.4	6.5	31	29	29	41.9	-12.9	31	12.9	61.3	25.8	-12.9
中分類	金属製品製造業	21	4.8	61.9	33.3	-28.6	21	19	28.6	52.4	-33.3	21	14.3	71.4	14.3	0
	一般機械器具製造業	41	19.5	39	41.5	-22	41	17.1	34.1	48.8	-31.7	41	9.8	58.5	31.7	-22
	電気機械器具製造業	33	18.2	51.5	30.3	-12.1	33	12.1	30.3	57.6	-45.5	33	12.1	45.5	42.4	-30.3
	輸送用機械器具製造業	16	18.8	56.3	25	-6.3	16	31.3	43.8	25	6.3	15	13.3	53.3	33.3	-20
	精密機械器具製造業	15	26.7	46.7	26.7	0	15	26.7	26.7	46.7	-20	15	26.7	53.3	20	6.7

## ①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 28.6$ と前回調査時の $\Delta 10.0$ から18.6ポイント悪化した。また、「前年同期比」の業況判断D Iは「悪化」とする企業が52.4%に達することから $\Delta 33.3$ となっている。

### ●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 22.0$ と前回調査時の $\Delta 19.5$ から2.5ポイント悪化した。また、前年同期比では「悪化」とする企業が11.3%増加し48.8%を占め、「前年同期比」の業況判断D Iは前回調査時の $\Delta 12.5$ より19.2ポイント悪化し $\Delta 31.7$ となっている。

### ●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況が「好転」とする企業が18.2%あることから、業況判断D Iは前回調査時の $\Delta 28.6$ から $\Delta 12.1$ へ16.5ポイント回復している。ただし、「前年同期比」の業況判断D Iは $\Delta 45.5$ 、「3ヵ月後」の業況予想D Iは $\Delta 30.3$ と5業種の中で最も厳しい見方となっている。

### ●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

前回調査時は「好転」企業0.0%、「悪化」企業41.2%で業況判断D Iは $\Delta 41.2$ であったが、今回の調査では「好転」企業が18.8%に増加し、「悪化」企業は25.0%へ減少したことから、同D Iは34.9ポイント回復し $\Delta 6.3$ となった。また、「前年同期比」でも31.3%の企業が「好転」とすることから6.3へとプラスに転じたものの、「3ヵ月後」の予想では33.3%の企業が「悪化」を予想していることから $\Delta 20.0$ へとマイナス幅が拡大している。

### ●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは26.7%の企業が「好転」としていることから0.0と、前回調査時より26.7ポイント回復している。ただし、「前年同期比」では46.7%の企業で「悪化」としており $\Delta 20.0$ とマイナスに転じている。また、「3ヵ月後」の予想では「横這」とする企業が多いものの、「好転」とする企業も26.7%あり、同D Iは6.7と5業種の中で唯一プラスとなっている。

## ②小分類、他の製造業

プレス加工の「3ヶ月前」と比べた業況判断は45.5%の企業が「悪化」としており同D I $\Delta 36.4$ 、光学機械器具では42.9%の企業が「好転」としており同D I14.3となっている。

## ③規模別業況

製造業の規模別の業況判断D Iは「1人～29人企業」 $\Delta 18.3$ 、「30人～99人企業」 $\Delta 20.4$ とマイナスであるが、「100人以上企業」では25.8%の企業で「好転」しているため同D Iは6.5と前回調

査時より 20.8 ポイント回復しプラスに転じている。

また、前年同期比では、「好転」とする企業があるものの、全ての規模で4割以上の企業が「悪化」としており前回調査時より全ての規模でマイナス幅は拡大している。

「3ヶ月後」の業況予想では、「悪化」とみる企業は「1人～29人企業」で32.9%となっており、業況予想は規模の小さな企業ほど厳しい予想をしている。また、「100人以上企業」は前回調査時の0.0より12.9ポイント悪化し△12.9とマイナスに転じた。

#### ④受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の受注状況D Iは「3ヶ月前比」△17.3、「前年同月比」△25.0となっており受注が減少した企業が増えている。「3ヶ月後」の予想では「増加」とみる企業が16.1%みられるものの、「減少」とみる企業が41.3%で受注予想D Iは△25.2と今後の受注環境を厳しくみている。

規模別の受注状況は、「1人～29人企業」で受注が減少した企業が40.8%、「30人～99人企業」で受注が減少した企業が48.1%みられるものの、「100人以上企業」では35.5%の企業で「増加」としており、同D Iは9.7とプラスに転じるなど規模により足元の受注状況は区々となっている。「3ヶ月後」の予想では、「30人～99人以下企業」の45.3%で「減少」を予想しており、前回調査時の同D I △16.7から11.6ポイント悪化し△28.3と他の規模よりも先行きを慎重にみている。

業種別では、「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、一般機械が「悪化」企業51.2%で同D I △29.3、金属製品が「悪化」企業42.9%で同D I △28.6とマイナス幅が拡大した。精密機械では、「不変」とする企業の割合が低下し、「増加」企業33.3%、「減少」企業46.7%と企業間による格差が開いている。

業種別・規模別受注状況表

表-3

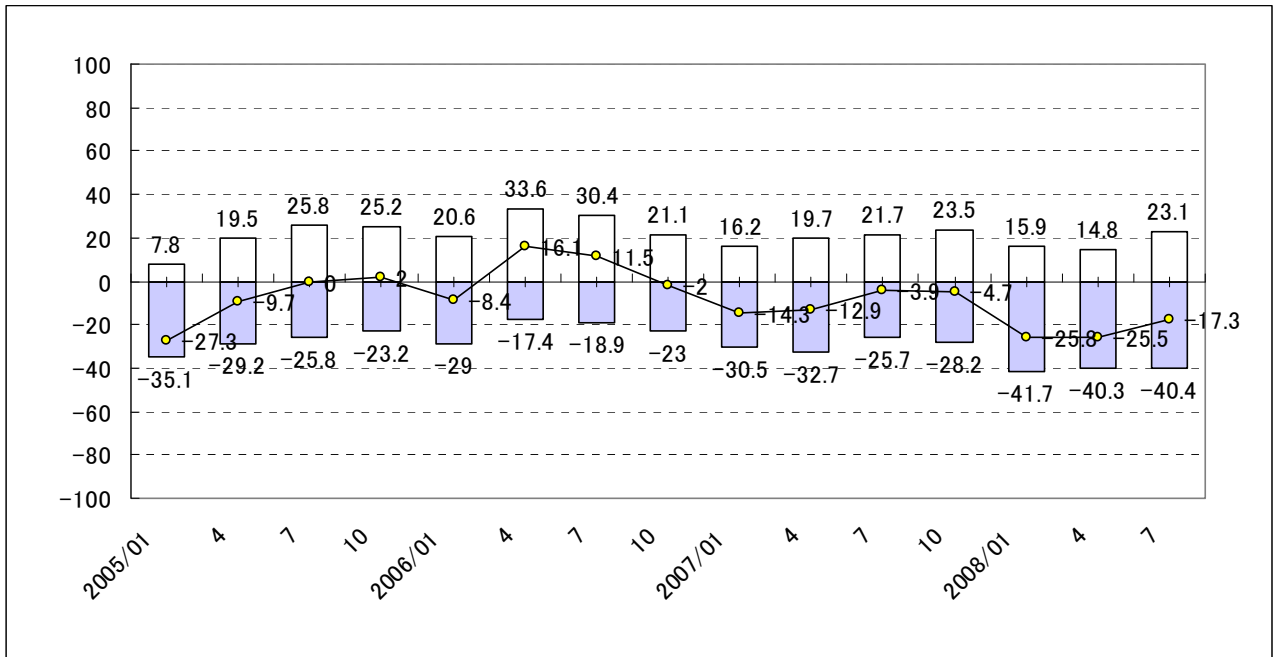
		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
	<b>製造業</b>	156	23.1	36.5	40.4	-17.3	156	23.7	27.6	48.7	-25	155	16.1	42.6	41.3	-25.2
規 模	1～29人	71	19.7	39.4	40.8	-21.1	71	22.5	22.5	54.9	-32.4	71	15.5	43.7	40.8	-25.4
	30～99人	54	20.4	31.5	48.1	-27.8	54	18.5	37	44.4	-25.9	53	17	37.7	45.3	-28.3
	100～人	31	35.5	38.7	25.8	9.7	31	35.5	22.6	41.9	-6.5	31	16.1	48.4	35.5	-19.4
中 分 類	金属製品 製造業	21	14.3	42.9	42.9	-28.6	21	28.6	28.6	42.9	-14.3	21	19	52.4	28.6	-9.5
	一般機械 器具製造業	41	22	26.8	51.2	-29.3	41	14.6	24.4	61	-46.3	40	15	45	40	-25
	電気機械 器具製造業	33	21.2	42.4	36.4	-15.2	33	12.1	27.3	60.6	-48.5	33	12.1	45.5	42.4	-30.3
	輸送用機械 器具製造業	16	25	43.8	31.3	-6.3	16	43.8	31.3	25	18.8	16	25	43.8	31.3	-6.3
	精密機械 器具製造業	15	33.3	20	46.7	-13.3	15	40	20	40	0	15	20	33.3	46.7	-26.7



製造業の受注状況D I の推移

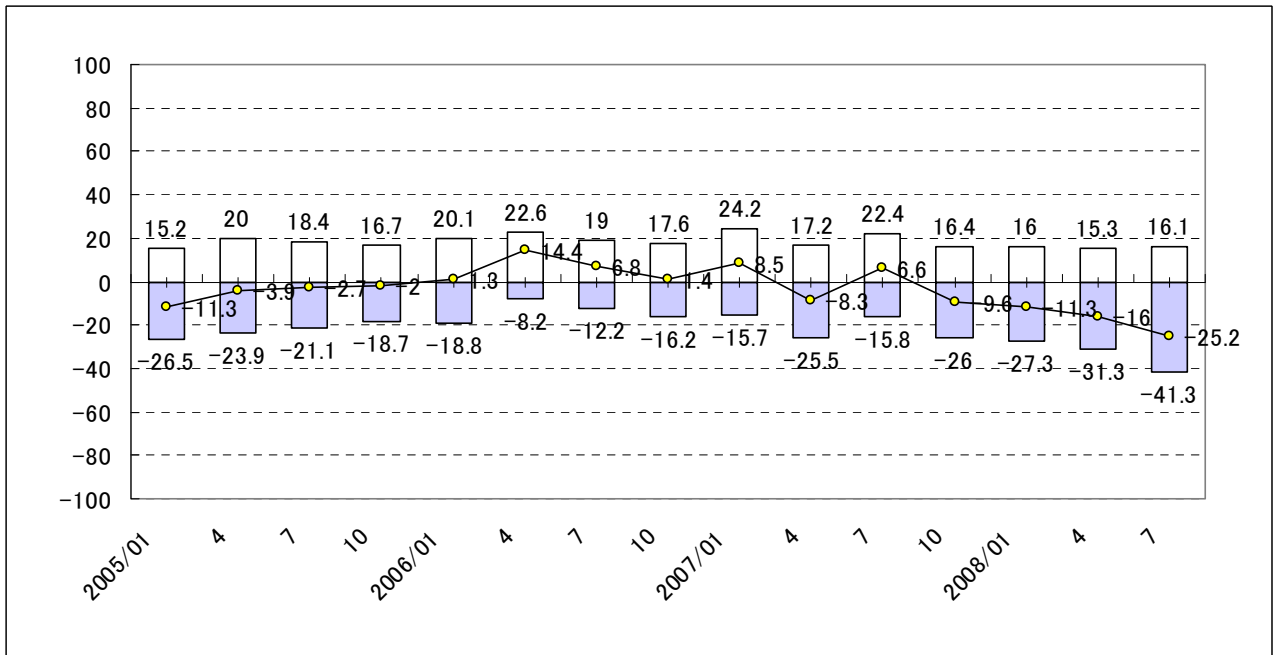
●全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフー4



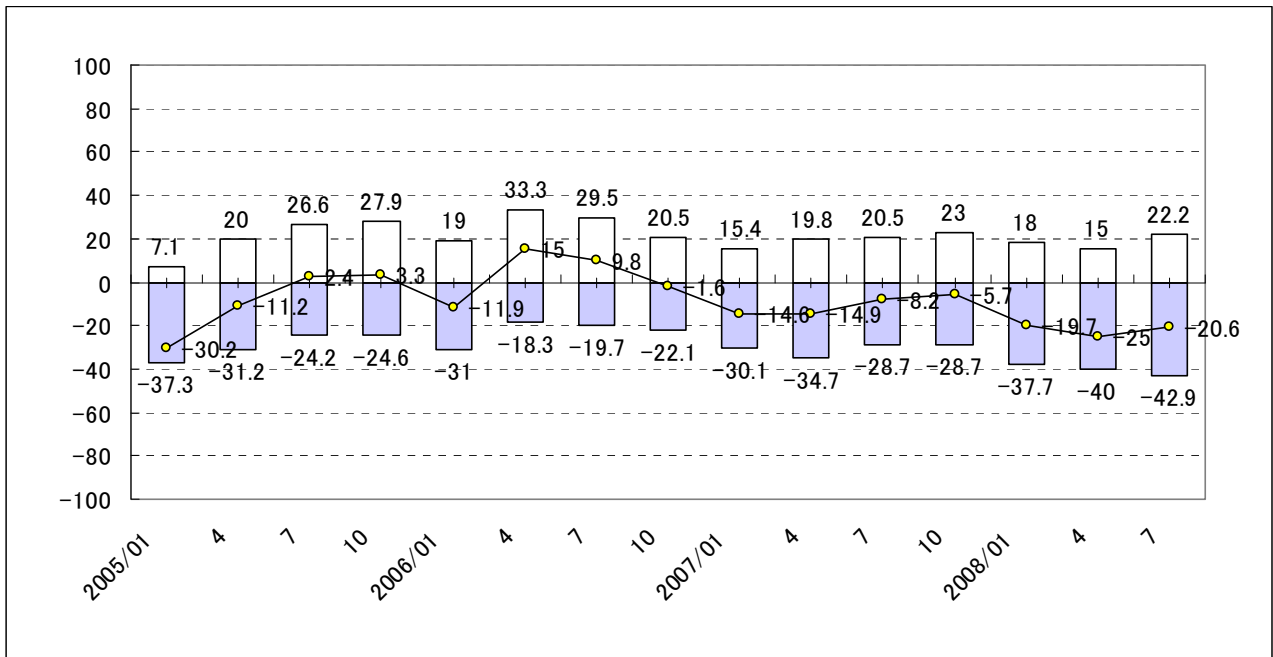
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



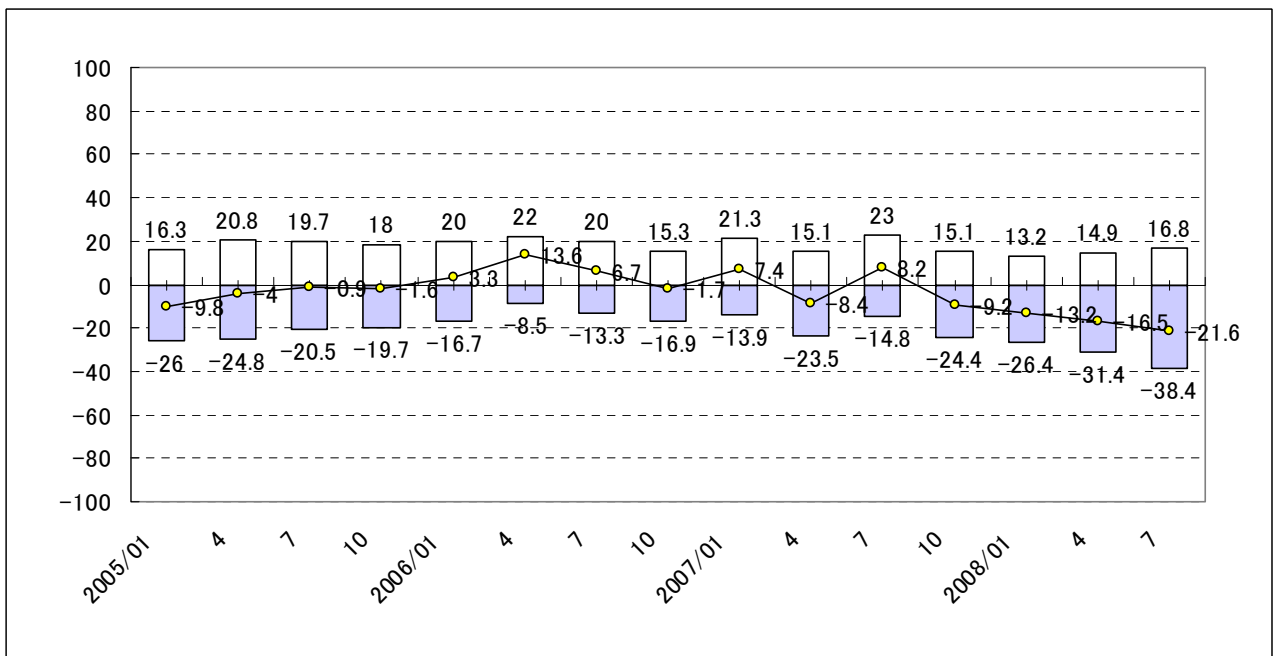
●主要 5 業種 : 「3 ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要 5 業種 : 「3 ヶ月後」の受注予想 D I の推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ①商業

諏訪地方の7月の天候は、梅雨前線の活動は弱く局地的に雷雨や大雨となることはあったが、真夏日を14日記録するなど晴れて暑い日が多くなった。「前年同期比」の業況では50.0%の企業で「悪化」として同D I △38.9、客単価では52.9%の企業が「悪化」として同D I は△35.3となっている。

ヒアリングでは、ガソリンをはじめとする諸物価の高騰から「消費者が必需品しか購入してくれない」など消費マインドの低迷がきかれる。

- 食料品                    アイスクリームや飲料関係は前年を上回る売れ行きとなっているが、一般食品では1点単価の上昇から買い上げ点数の落ち込みがみられ、売上は横這いとなっている。
- 衣料品                    夏のバーゲンや猛暑を受けてTシャツなど値ごろ感のある夏物衣料に動きがみられたものの、単価の高いファッション衣料の動きは弱く消費マインドの低下がきかれる。
- ホームセンター        扇風機やよしず、ミニプールなど夏物商材の動きは順調である。
- 大型家電店              猛暑から省エネ型エアコンの売れ行きは順調であり、DVDレコーダーの動きも堅調であるが、薄型TVの売れ行きは五輪効果を期待したほどではない。

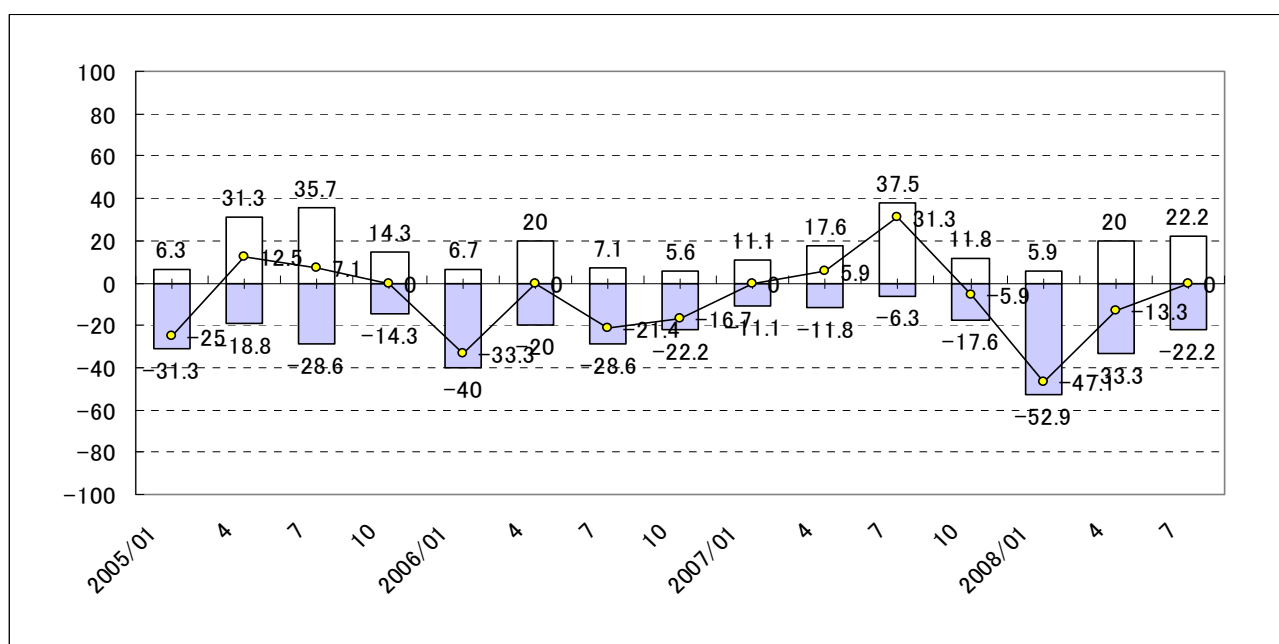
### 業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	18	22.2	55.6	22.2	0	18	11.1	38.9	50	-38.9	18	5.6	72.2	22.2	-16.7
客単価	18	16.7	50	33.3	-16.7	17	17.6	29.4	52.9	-35.3	18	16.7	50	33.3	-16.7
来店客数	18	22.2	44.4	33.3	-11.1	16	25	43.8	31.3	-6.3	18	11.1	61.1	27.8	-16.7

### ●商業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



## ②観光・サービス業

本格的な観光シーズンを迎え、また週末の天候に恵まれたことから「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは31.8、宿泊客数DIは45.5と高水準になっている。

ただし、「前年同期比」の業況判断では47.6%が「悪化」としており同DI△33.3、宿泊客数では50.0%のホテル旅館が「悪化」としており同DI△36.4となっており、引き続きNHK大河ドラマ「風林火山」の効果があった昨年に比べ低調となっている。

「3ヶ月後」の予想では、秋の観光シーズンに向け業況が「好転」とみるホテル旅館が22.7%あり業況予想DIは9.1とプラスであるものの、客単価が「悪化」とみるホテル旅館が36.4%あり同DIは△31.8となっている。

上諏訪温泉の7月の宿泊客数は、ホテル旅館により区々であるが総体では前年同月比10%程度減少した模様である。下諏訪温泉のホテル旅館では、日帰り客（宴会客）を集客し売上を伸ばしたところも聞かれるが、総体では昨年並みの売上げ状況である。白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、入込み客は10%程度増加したものの、宿泊客数は前年並みに推移している。

各観光地やホテル旅館からは、団体客の減少と鉄道を利用した入り込み客が目立つとの声が多い。

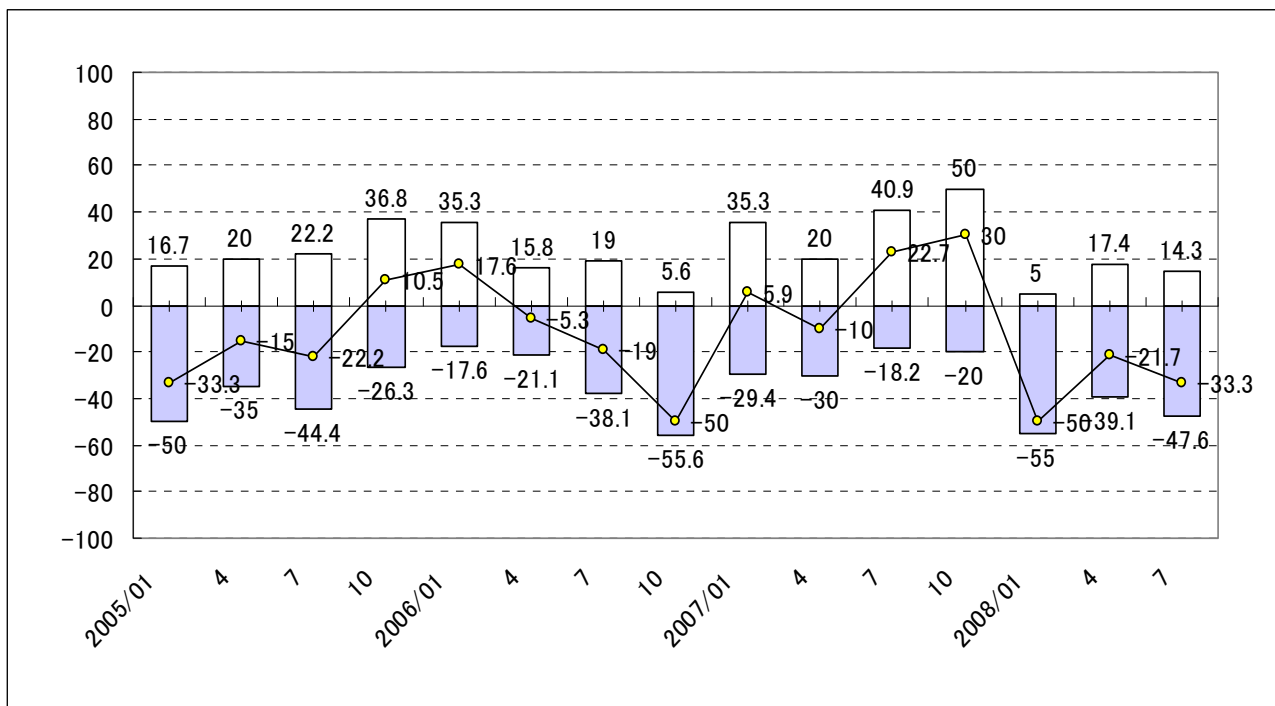
### 業況、売上、宿泊客

表-5

業況	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	22	45.5	40.9	13.6	31.8	21	14.3	38.1	47.6	-33.3	22	22.7	63.6	13.6	9.1
客単価	21	23.8	57.1	19	4.8	22	9.1	63.6	27.3	-18.2	22	4.5	59.1	36.4	-31.8
宿泊客数	22	68.2	9.1	22.7	45.5	22	13.6	36.4	50	-36.4	22	13.6	54.5	31.8	-18.2

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



### 3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△11.8で前回調査時の△21.4から9.6ポイント回復した。また、受注状況、外注発注量が「好転」したとする企業が29.4%あり、それぞれのD I値も10ポイント以上改善している。ただし、「3ヶ月後」の予想では、受注状況が「悪化」とみている企業が64.7%あり同D Iは△52.9となっている。

ヒアリング調査では、受注単価の競合は激しいものの昨年より計画していた工場の新築や増改築工事などの民間工事に動きが出ており、足元の受注は増加しているとする企業も多い。ただし、製造業の業況の減速感を受け今秋以降の受注動向を危惧する声がかかれる。

#### ①建築工事

諏訪地方の平成20年6月の新設住宅着工件数は139戸で、昨年同月の156戸から△17戸(△10.9%)減少した。また、平成20年4月～平成20年6月の累計着工戸数は430戸で前年同期の504戸に比べ△74戸(△14.7%)減少した。

#### ②土木工事

県関係の平成20年4月～7月の公共工事(地元業者受注分)は48件1,445百万円で、前年同期累計の44件2,538百万円に比べ金額は△1,093百万円の減少であるが、工事件数はほぼ同水準となり幾分動きが出てきている。

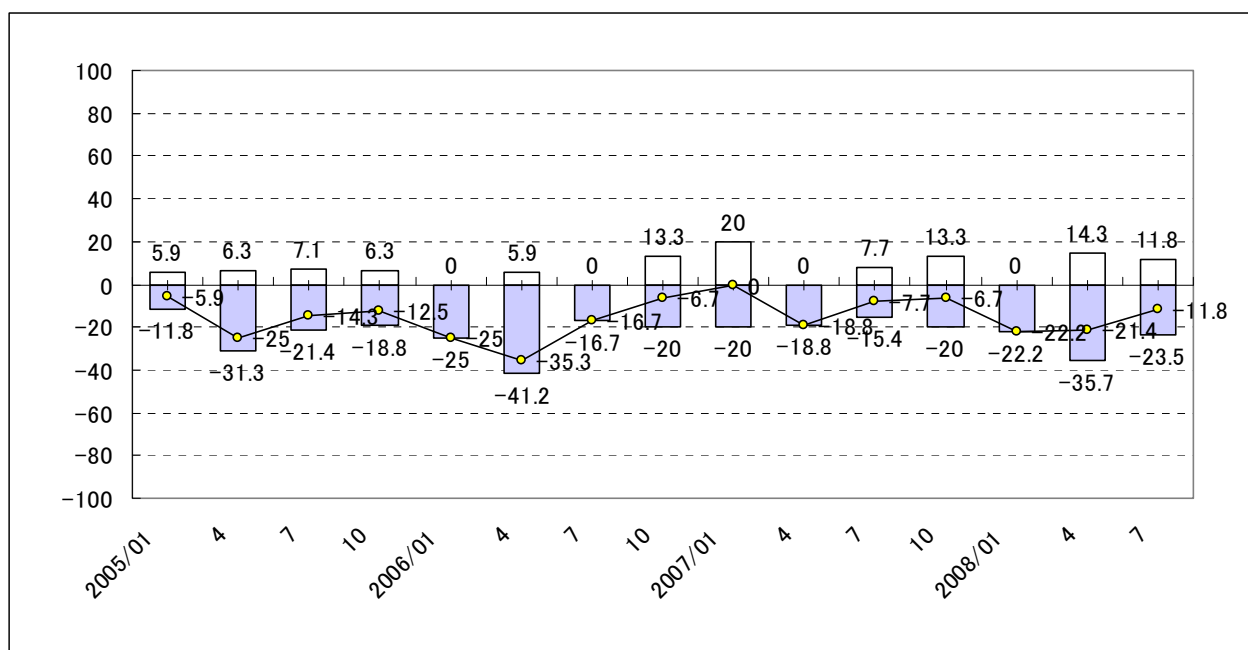
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	17	11.8	64.7	23.5	-11.8	17	11.8	52.9	35.3	-23.5	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
受注状況	17	29.4	23.5	47.1	-17.6	17	35.3	17.6	47.1	-11.8	17	11.8	23.5	64.7	-52.9
外注発注量	17	29.4	23.5	47.1	-17.6	17	29.4	23.5	47.1	-17.6	17	17.6	35.3	47.1	-29.4

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



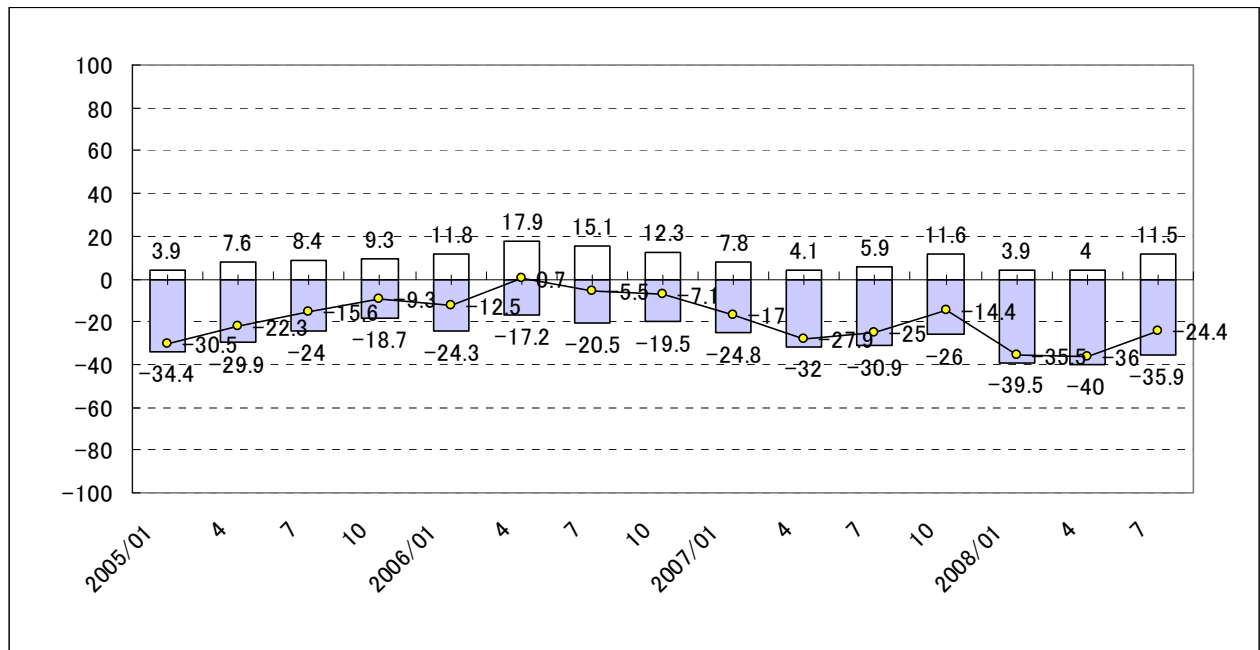
#### 4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、行楽シーズンを迎えた観光・サービス業の回復などから前回調査時の $\Delta 34.7$ から14.0ポイント上昇し $\Delta 20.7$ となっている。

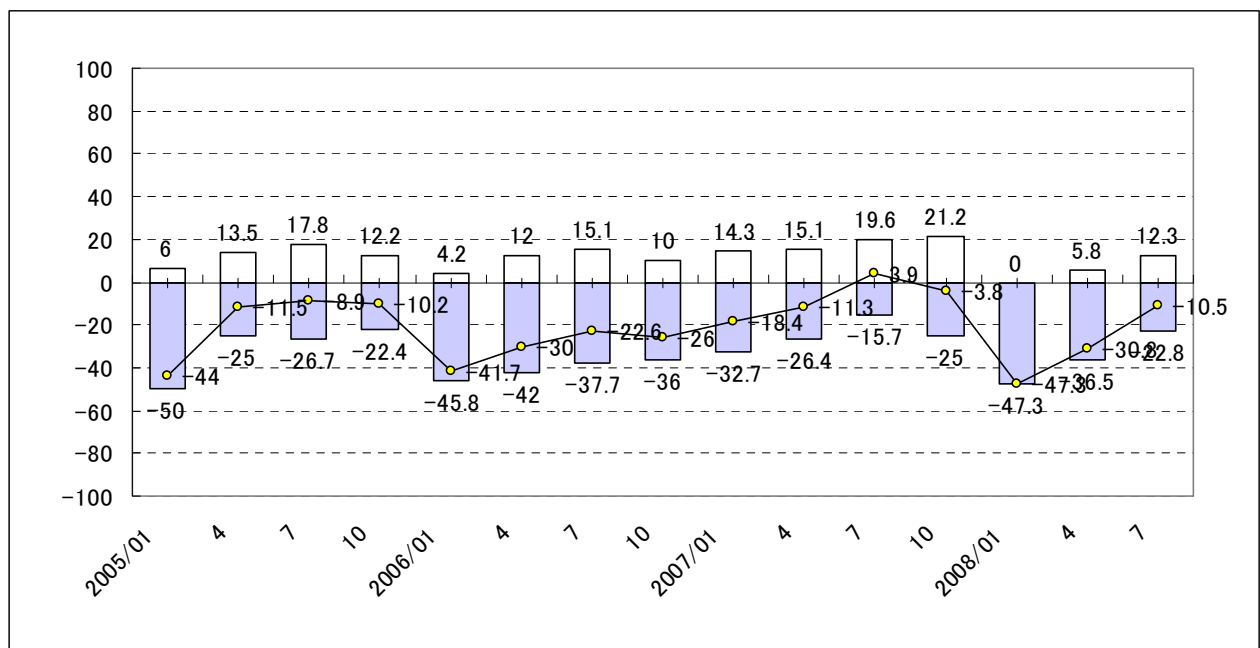
製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「悪化」した企業が35.9%で同D Iは $\Delta 24.4$ 、「前年同期」と比べ収益性が「悪化」した企業は48.7%で同D Iは $\Delta 37.7$ となっている。総体のD I値はマイナスとなっているものの、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業も11.5%みられ、一部の企業からは原材料価格の高騰分の転嫁が進められているという声もある。非製造業の収益性D Iは、観光・サービス業や商業の回復から前回調査時の $\Delta 30.8$ より20.3ポイント回復し $\Delta 10.5$ となった。

●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて グラフー12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、競争激化、単価引下げをあげる企業が多く、②商業は競争激化、売上減少、人件費、③建設業は競争激化、売上減少、単価引下げ、④観光・サービス業は売上減少、資金繰り、人件費をあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	101	75	8	7	11
単価引下げ	57	40	3	7	7
競争激化	72	43	11	12	6
資金繰り	47	33	1	4	9
人件費	31	16	5	2	8
労働力確保	25	16	3	2	4

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	諏訪公共職業安定所管内	1.12倍	△0.20ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	11,076枚	△3,235枚	
	金額	14,312百万円	△5,394百万円	
	うち不渡り 発生状況	枚数	4枚	△37枚
		金額	3,637千円	△11,449千円
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		1,145件	+3.0%	
新設住宅着工件数【H20.4～6】(諏訪管内)		430件	△14.7%	

## 7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成20年7月末
- 調査内容 「平成20年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 213企業
- 回答率 71.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	156	18	17	22	213